

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	3	-	事業名	広報事務等事業(広報事業)	担当部課	市長公室情報課
------	---	---	-----	---------------	------	---------

基本情報	総合計画	基本方針	5	みんなの力を結集する自治と協働のまち	会計	1 一般会計
		分野別項目	4	行政情報を提供し、住民意見を聴く機会を充実する	款	2 総務費
		施策の進め方	-		項	1 総務管理費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F1	「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～	目	7 広報広聴費
		政策分類	-		大事業	2 広報事業
	その他(関係法令、要綱等)		-			
事業開始の背景、経緯等		行政情報を市民に正確に伝達し、まちづくりへの参加・協力への機運を高めるために実施している。				

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 市政情報を伝える事業として、広報紙「広報ながくて」発行、動画としての市政情報をケーブルテレビにおいて放映している。 また、本市の名古屋市近郊という立地条件から市外から転入した市民等へ配布する公共施設ガイドマップも作成し、配布している。				
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内外の住民に対して				
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 長久手市について深く知ってもらおう。				
	事業を構成する事務事業	① 広報事務事業	改善・見直し	④ 公共施設ガイドマップ作成事業	改善・見直し	
	② 広報紙発行事業	改善・見直し	⑤ ケーブルテレビ番組制作事業	改善・見直し		
	③ 市勢要覧作成事業	改善・見直し	⑥			

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)		千円	予算			54,947	49,323
決算						51,967	46,229	
人件費(B)		千円	決算			14,195	9,822	
総コスト(A)+(B)		千円	決算			66,162	56,051	

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	A 広報紙の内容についての不満足度	%以下		目標	-	5.0	5.0	5.0	5.0
				実績	1.5	1.4	1.4	4.0	
	B 番組の視聴頻度	%以上		目標	80.0	40.0	40.0	40.0	40.0
実績				38.9	42.0	42.4	39.8		
C			目標						
			実績						

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 広報の「見づらさ」「分かりにくさ」を解消することを目的として、モニターアンケートの「不満足度」の過去実績を参考に数値目標を設定する。

B 番組への「親しみ度合い(視聴の程度)」を把握するために、モニターアンケートの「視聴頻度」の過去実績を参考に数値目標を設定する。

C

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 広報紙は全ての行政機関で実施している。
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 概ね達成できている。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 広報事業は、市民及び市外の住民へ市の情報を直接発信する重要な役割を果たしており、多様な手段を用いて発信する必要がある。今後も本市をとりまく環境に見合った情報発信方法を模索し、検討していく。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 市内外の住民に対して、本市により興味を持ってもらうために、市政・広報モニターアンケート等を活用し、紙、映像等各媒体の特徴をいかした方法で、市政情報を伝えていく。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 市内外の住民に対し、長久手市の魅力、特色等を紹介し、長久手市を深く知ってもらう。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		広報事務等事業（広報事業）										
番号	①	事務事業名	広報事務事業		款	2	項	1	目	7	大事業	2	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		-		終了（予定）年度	-								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	市民を中心として市政に関するアンケートの実施や市民記者制度を実施している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	市政アンケートや市民記者に登録する市民等の数を増やし、市政に関心を持ってもらう。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			1,961	2,038	2,043
		決算			1,431	1,415	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
ながモニ登録者数	人	目標	100	100	100	100	100
		実績	98	107	96	97	
市民記者記事投稿件数	件	目標	50	50	50	50	50
		実績	190	49	53	49	

4. 事務事業を取り巻く環境変化

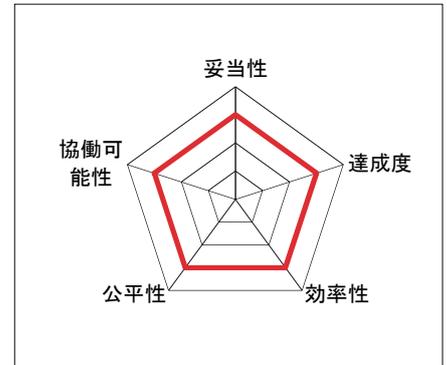
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
各種計画等の策定にあたっては、市民の意向を施策に反映させるため、市民を巻き込み意向をヒアリングしている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
今年度新規対象
(何をどのような状態に改善したのか)
—

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
他課の事業に関しても同様にアンケートを行うことにより、事業のブラッシュアップが期待できる。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
ながモニ登録者数及び市民記者記事投稿件数が増えない。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
ながモニの実施要綱を改定し、登録者の定着をはかる。登録者の記事投稿促すような登録者同士の交流の場等を作っていく。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		広報事務等事業（広報事業）										
番号	②	事務事業名	広報紙発行事業		款	2	項	1	目	7	大事業	2	中事業	2
事務事業の期間	事務事業開始年度		昭和40年		終了（予定）年度	-								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 毎月一回広報紙を発行し、市内に全戸配布している。また、市内公共施設や大学にも設置し、利用者に周知している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市内外の住民に、市政情報を提供する。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			26,100	24,531	24,900
		決算			22,860	21,780	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
不満足度	%	目標	-	5.0	5.0	5.0	5.0
		実績	1.5	1.4	1.4	4.0	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

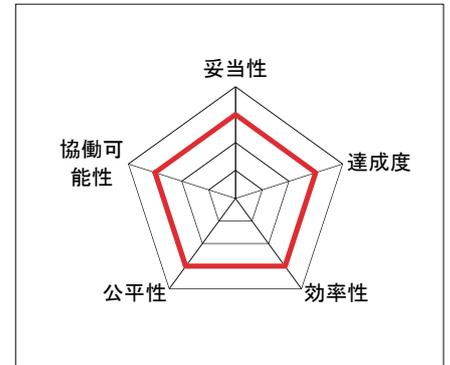
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 市政情報をわかりやすく伝える手段のひとつとして、月1回広報がなくして発行している。幅広い年代層の市民を対象としていることから、紙面に掲載する情報が増加しており、紙面構成に苦慮している。
--

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント> 活動指標の不満足度（市政・広報eモニターアンケート結果（広報紙が読みにくい））から、広報紙が読みにくいと感じている市民はかなり少なく、概ね広報紙を読みやすいと感じていると考えられる。 今後も、アンケート結果等を踏まえ、より読みやすい広報紙づくりに努めていく。
(何をどのような状態に改善したのか) シニア向けのページは文字を大きくする、又は不要な表現は簡略化する等少しずつではあるが、改善を図っている。 シニア向けページ以外についても、今後もよりいっそう読みやすい文書を作成するために、さらなる研究を進める。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) シニア向けのページは文字を大きくする、又は不要な表現は簡略化する等改善を図っている。また、広報配達員を市民から募集して、広報配達業務を行っている。
--

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど) 紙面に対し、掲載情報が多い場合、見る人によっては文字が小さく感じることがある。必要最小限の文章量と文字の大きさについては常に苦慮している。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) 活動指標の不満足度（市政・広報eモニターアンケート結果（広報紙が読みにくい））から、広報紙が読みにくいと感じている市民は少ないと思われるが、一方で「ご意見箱」で加齢により広報の字が小さく読みにくいとの意見があった。アンケート結果等を踏まえ、より読みやすい広報紙づくりに努めていく。
--

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		広報事務等事業（広報事業）										
番号	③	事務事業名	市勢要覧作成事業		款	2	項	1	目	7	大事業	2	中事業	3
事務事業の期間		事務事業開始年度		—		終了（予定）年度		—						

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)	視察で長久手市を訪れた方を中心に、長久手市の魅力、特色等の概要を広く紹介するための市勢要覧及びその補足資料を作成し、配布している。
	(対象をどのような状態にしたいか)	長久手の魅力、特色等を知ってもらう。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			2,639	238	238
		決算			2,435	175	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
発行部数	部	目標	1,000	1,000	4,000	1,000	1,000
		実績	1,000	1,000	4,000	1,000	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

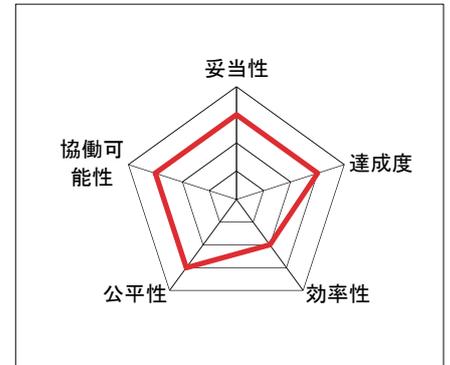
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
市勢要覧の補足資料として「長久手市データファイル」を毎年作成している。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
今年度新規対象
(何をどのような状態に改善したのか)
—

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	2
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
人口、土地、財政、生活等の市の情報に加え、「市民の力をまちづくりに活かそうとする取組」を多く掲載し、紹介した。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
構成内容及び発行部数が少ないこともあり、視察来庁者等特定の人に対して配布しており、評価が難しい。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
人口、土地、財政、生活等の市の情報に加え、様々な「市民の力をまちづくりに活かそうとする取組」を掲載し、紹介した。各分野で市民の力を活かしたまちづくりを進めている本市の特徴である「市民の力をまちづくりに活かそうとする取組」を多く掲載するとともに、取組が広がるような紙面作りに努めていく。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		広報事務等事業（広報事業）									
番号	④	事務事業名	公共施設ガイドマップ作成事業	款	2	項	1	目	7	大事業	2	中事業	4
事務事業の期間	事務事業開始年度			—			終了（予定）年度			—			

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	市民に対し、公共施設等の情報が入った地図を作成する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	市民に、市内公共施設等の情報を提供する。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			562	551	551
		決算			825	516	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
発行部数	部	目標	5,000	5,000	8,000	5,000	5,000
		実績	5,000	5,000	8,000	5,000	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

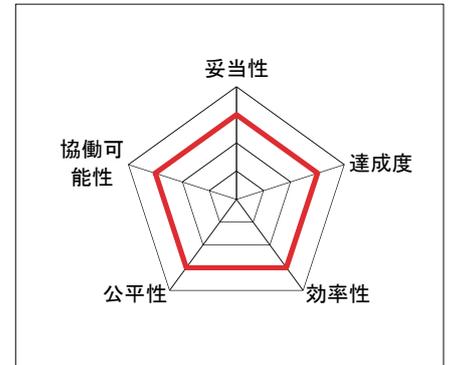
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
市外からの転入等の人口増加に伴い、公共施設ガイドマップ配布の需要は増えている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
人口増加に伴い、公共施設ガイドマップ配布の需要も増加している中、(株)ゼンリンと協定して作成する「暮らしの便利帳」も転入した市民等に好評である。今後は、地図と公共施設等の組み合わせた情報をどのような編集形態で市民へ提供していくのが市民にとってわかりやすく、かつ市の業務として効率的になるのかを研究して行く必要がある。
(何をどのような状態に改善したのか)
暮らしの便利帳に関して、平成28年度版は前回発行版に新たに福祉関連施設情報を追加して発行した。より市民に市内情報を提供できる媒体となっている。なお、平成27年度はガイドマップを2回発行したため発行部数、決算額ともに多くなっている。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
(株)ゼンリンと協定して作成する「暮らしの便利帳」が転入した市民等に好評である。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
地図と公共施設等の組み合わせた情報について、市民にとってわかりやすい編集に苦心している。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
人口増加に伴い、公共施設ガイドマップ配布の需要も増加している中、(株)ゼンリンと協定して作成する「暮らしの便利帳」も転入した市民等に好評である。今後は、地図と公共施設等の組み合わせた情報をどのような編集形態で市民へ提供していくのが市民にとってわかりやすく、かつ市の業務として効率的になるのかを研究して行く必要がある。また、他課が作成しているマップと統合できないか、検討していく。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		広報事務等事業（広報事業）									
番号	⑤	事務事業名	ケーブルテレビ番組制作事業	款	2	項	1	目	7	大事業	2	中事業	5
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成10年度		終了（予定）年度		—						

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	ひまわりネットワーク契約者を中心として（市役所市民課前等でも視聴可能）、市政情報を動画で伝える手段として、ひまわりネットワークのケーブルテレビで、20分の情報番組（1日4回以上、月曜日に内容更新）を作成し放映している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	視聴者に対し市の事業や地域活動等をPRすることにより、市事業等に興味を持ってもらい、多くの市民がまちづくりに参画することを目指す。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			25,357	21,965	21,965
		決算			25,355	22,343	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
視聴頻度	%	目標	80.0	40.0	40.0	40.0	40.0
		実績	38.9	42.0	42.4	39.8	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

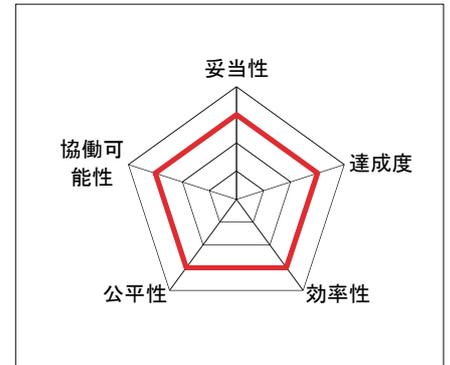
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
ケーブルテレビの未加入世帯にも主な番組の内容を見ることができるよう、インターネット環境の普及を生かしたストリーミング配信を行っている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
活動指標の視聴頻度（市政・広報eモニターアンケート結果（毎週見る～月1回程度見る））から、目標を達成している。
今後も、アンケート結果等を踏まえ、より視聴頻度の実績を上げる方法として、広報ナビゲーターの活用など、市民との距離を縮める親しみやすい番組づくりに努めていく。
(何をどのような状態に改善したのか)
広報ナビゲーターの活用など、市民との距離を縮める親しみやすい番組づくりに努めた。また、市民活動をPRする際は、その活動への参加方法なども併せて紹介するようにした。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
活動指標の視聴頻度（市政・広報eモニターアンケート結果（毎週見る～月1回程度見る））が40%を達成している。

【ウィークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
番組で取り上げた団体への参加方法など、より市民がまちづくりに参加しやすいよう告知を工夫する必要がある。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
活動指標の視聴頻度（市政・広報eモニターアンケート結果（毎週見る～月1回程度見る））から、目標を達成している。
今後も、アンケート結果等を踏まえ、より視聴頻度の実績を上げる方法を研究する。